

2013年6月3日

経済産業大臣  
茂木 敏充 様

〒790-0003 愛媛県松山市三番町 5-2-3 ハビル3F

### 伊方原発をとめる会

【共同代表】安西賢誠（真宗大谷派専念寺住職）、大原英記（平和運動センター事務局長）  
草薙順一（弁護士）、河野文朗（愛媛医療生協前理事長）、白戸暉男（農業）、清野良榮（松山大学教授・福島県出身）、須藤昭男（インマヌエル松山キリスト教会牧師・福島県出身）  
立川百恵（コープえひめ前理事長）、中尾寛（愛媛労連執行委員）、真鍋知巳（医師）  
松浦秀人（愛媛県原爆被害者の会事務局長）、村田武（愛媛大学社会連携推進機構客員教授）、  
和田宰（伊方等の原発をなくす愛媛県民連代表幹事）

## 伊方原発を再稼働させず、廃炉計画を示すよう求める申し入れ

当会は、「絶対に福島のような事故を繰り返してはならない」と、2011年11月3日に発足しました。伊方原発は、閉鎖性水域である瀬戸内海に面しており、原発事故は瀬戸内海を死の海に変えてしまいます。原発の沖合6kmに中央構造線活断層帯があり、たちまち強い地震動が原発を襲う脅威にさらされています。そして、日本一細長い佐田岬半島では住民の避難自体がきわめて困難です。

原発直下の活断層があらためて確認された報道もあり、これまでの「ずさん」な審査の問題が明らかになっています。住民の不安はきわめて大きなものがあります。

ついでに、伊方原発について、以下の点を申し入れます。

### 記

#### (1) 伊方原発の再稼働をさせないでください。

伊方原発は閉鎖性水域である瀬戸内海に面しており、過酷事故が起これば深刻な被害が避けられません。震源が近くきわめて短時間に、「距離減衰」がないまま地震動が原発を襲う場合、制御棒が入らない可能性も排除できません。原発が停止できず運転中のまま、重要配管などに損傷を受ければ、福島事故と比較できないほどの大規模な事故になる可能性があり、住民は常に大きな不安を抱えての暮らしを余儀なくされています。伊方原発は再稼働させず、廃炉にしてください。

#### (2) 廃炉計画を示してください。

四国電力からは、稼働した場合の道筋ばかりが示され、稼働しない場合の廃炉に向けた工程や作業量などが示されていません。これはフェアな態度とは言えません。「やむなく稼働容認」を引き出そうとする偏った態度に他なりません。国として伊方についても廃炉計画を示してください。

#### (3) 使用済み核燃料の徹底した安全管理を行ってください。

伊方原発は2001年に、燃料プールの燃料束の間隔を狭めています。これは、冷却停止や水漏れ時の冷却水の蒸発を早め、かつ燃料束が相互に反応する危険をより高くしています。また、伊方原発では、直前に米軍の大型ヘリが落下した事実があります。使用済み燃料等の徹底した安全管理を行ってください。

以上